

## 平成 29 年度 事 業 報 告

理事長 岩 崎 長 盛

社会福祉法人としての使命は「社会、地域における福祉の発展・充実」にあり、社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めることが本道である。さらには、多様な福祉課題に柔軟にかつ主体的に取り組むことを旨とし、公益性・公共性の高い法人である。平成 29 年度は、この主旨をより具体的に実現するために社会福祉法改正がされ施行された。

当法人は既に、2007 年より宇都宮市スポーツ広場整備事業の助成を地元自治会と共に受け、住民の健康と体力の向上を図ることを目的とした、無料低額な貸グランド事業を行っている。さらに、栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会の実施する「いちごハートねっと事業」に加盟して「おこまり福祉相談窓口」を開設したところである。その他、地域事業委員会を立ち上げ、地域貢献事業として、各地域で役立つ専門的なセミナーを開催するに至った。

続いて、宇都宮市の実施する総合事業を念頭にした通所介護であるグッドエイジクラブ宇都宮の開設を行った。また、近隣の 5 市からの受け入れを行い、広域的なリハビリデイサービスとしてその周知を図った。概ね、順調に利用者の増加が続いている状況である。

宝寿苑拠点については、大規模な修繕工事が 2 か所あり、繰越金を減額する要因となった。しかしながら、訪問看護ステーション青い鳥の運営が軌道に乗り、デイサービス、ヘルパーステーション、グループホームの運営が底堅く推移したため、まずまずの内容である。中でも、特記しておくことは、開設以来、初めて特養での褥瘡が 0 人になったことである。

ほそや拠点については、ユニットケアの県内初めての研修施設ということもあり、さらなる、個別ケアの向上をめざした。24 時間シートの作成については、その質の向上を図り、ショートステイ利用者のシート作成まで行うこととなった。その他、宝木デイサービスセンターからグッドエイジクラブ宇都宮への移行を円滑に行ったことは評価すべきであろう。

上河内拠点については、「大人の学校」というデイサービスの新システムの導入を図り、小規模、上河内でその質の向上に努めたことはプラスであるが、羽黒デイ、上河内デイの利用者の増加が思ったより伸張しなかった。次年度は、体制を変えて改革していかなければならない。ヘルパーステーションは地域のニーズを取り込み、着実に売り上げを伸ばしている。グループホームについては、業務チェックリストの活用により更なるサービスの質の向上が図られた。